

【プログラム名】

◎ほめることってどんなこと？

家庭教育支援ガイドブック「ほめることの効果」

1 プログラムの準備等

○適切な実施時期：いつでも

○実施時間：約50分間（説明5分、プログラム45分）

○対象：児童期（小学校中学年～高学年）の子どもの保護者

○準備物、配布物

【配布物】※ファシリテーターの指示で配布

- ・家庭教育支援ガイドブック「ほめることの効果」
- ・A4用紙（1グループ5枚程度。グループワーク1で配布）
- ・ふりかえりワークシート
- ・ペン（多色のもの）
- ・クリップボード（なくても可。必要に応じて使用）

【備品】

- ・ホワイトボード（なくても可）
- ・タイマー

<事前にホワイトボードに書いておくこと>

ワーク「ほめ言葉について考えてみよう」

- ・一番よいと思ったほめ言葉



2 展開例 (15:00~15:50 に実施の場合)

時間	プログラムの内容	ポイント 等
15:00~ (5分)	<p>○開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターあいさつ、自己紹介 ・今日の講座の趣旨と流れの説明 ・グランドルール [守秘、参加、尊重、時間厳守] の確認、写真撮影の了解など <p>【グループづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじ引き、隣近所、指定 (名前シールを作って割り振る) のいずれか <p>3人一組で10班 ※参加者が30人の場合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーター2名 (進行と板書、配布など) <p>【趣旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自信をもって物事に取り組み始めるようになるために、ほめることが大切であること。 ・「ほめる」場面や言葉について考える機会であること。
15:05~ (3分)	<p>○アイスブレイク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士の自己紹介 <p>名前と子どものクラスを言う</p>	
15:08~ (10分) 予備2分	<p>○グループワーク1「ほめ言葉について考えてみよう」</p> <p>(やり方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※事前に「記録係」と「発表係」を決めてもらう。 <p>①「ほめ言葉」を、順番に思いつく限り挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※「ほめ言葉」は重複してもよい 3分 <p>②記録係は、出てきたほめ言葉を用紙に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※「出てきたほめ言葉の数」も数えておく。 <p>③グループ内で、「一番よいと思ったほめ言葉」を選ぶ。 2分</p> <p>【全体共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表者が、「出てきたほめ言葉の数」と、「一番よいと思ったほめ言葉」を発表する。 ・ファシリテーターはホワイトボードに「一番よいと思ったほめ言葉」を書き出す。 <p>※すでにホワイトボードに書かれている場合はチェック印を付け、まだ出ていないほめ言葉があれば追記する。 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほめ言葉のバリエーションを増やす。 ・各グループに、記録用のA4用紙と筆記具を配布 ・ゲーム感覚で、思いつく限りほめ言葉を出すよう促す。(日ごろ、そのほめ言葉を使っているかは問わない) ・①を始めて3分たったら、ファシリテーターは全体に声かけをし、「一番よいと思ったほめ言葉」を選ぶように促す。 ・ホワイトボードがなければ板書なしで行う。 ・ホワイトボードに書くときは、後ろの人にも見えるように大きく、くっきりと書く。また、口頭でも伝える。

<p>15:20～ (20分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援ガイドブック「ほめることの効果」についての説明 3分 <p>○グループワーク2「ほめる時は、どんな場面？」(やり方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブックの「今できていることを認めてほめる」、「その子自身の過去と比べて、伸びたことを見つけてほめる」を踏まえ、どんな場面でほめ言葉をかけられそうか話し合う。 ※ここでは書かずに話すだけにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番数の多かったグループに、みんなで拍手をする。 ・ガイドブックのコピーを配布する。 ・ガイドブックの説明と併せてファシリテーターがエピソードを短く話す。 ・自分では気づいていない、ほめる場面があることに気付く。 ・ファシリテーターは、1日の生活場面を想定できるよう例を提示する。 【朝の準備、食事中(前後)、宿題、帰宅時、手伝い、明日の準備 など。ワーク1で出たほめ言葉の場面を考えてもよい】
<p>15:40～ (10分)</p>	<p>○ふりかえり(やり方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で、「①自分の子どもの○○の場面」で、「②○○(ほめ言葉)と声掛けをしたい」とA4の用紙に書く。 ・書いたことをグループ内で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりシートを配布 ・ファシリテーターが、ワーク1, 2を軽く振り返る。 ・ファシリテーターは事前にふり返しシートを記入しておき、書き方の例として提示、説明を行う。 ・立派なほめ言葉ではなく、子どもを認める言葉がけが大切であることを伝える。
<p>15:50</p>	<p>○閉会</p>	

ふりかえりシート

〔①〕 子どもの〇〇の場面で、

〔②〕 〇〇（ほめ言葉）と声かけをしたい。

ほめることの効果

どんなふうに
ほめたらいいのかしら
悪いところが
目についちゃって..



こんなふうに思うことはありませんか？

ほめる内容は当たり前前のことでいいのです

- ① 今できていることを認めてほめる
- ② その子自身の過去と比べて、伸びたことを見つけてほめる

今日のあいさつは
元気でいいね

いつもより早く
起きられたね

ちょっとしたこと
でもいいのね



大事なことはその子自身を認めてほめることです。子どもの「すごい」「さすが」「すばらしい」をたくさん見つけて、言葉で伝えましょう。

ほめられることによって心に変化が生まれます

うれしい!

また、
がんばろう!

もっと
できるかも!

- ➡ 気持ちがポジティブになる
- ➡ 前向きに物事に取り組める
- ➡ 「挑戦しよう」という意欲がもてる
- ➡ 自分は大切な存在だと思える
- ➡ 自分に自信がもてる
- ➡ 学習が身につきやすくなる

自信をもって物事に取り組める自立した子に